

平成29年1月25日

会 議 概 要

審議会等の名称	平成28年度第2回市川市社会教育委員会議	
開催日時	平成29年1月25日（水）14時30分～16時00分	
開催場所	市川教育会館2F 研修室	
出席者	委員	千坂行雄委員長、横田恒幸副委員長、清水輝和委員、寺内理絵子委員、福田潔子委員、石原みさ子委員、成田久江委員、野澤順治委員、立原充彦委員、田中眞理子委員、福澤健次委員
	所管課	生涯学習部 社会教育課
	関係課	教育総務課、就学支援課、教育施設課、青少年育成課、社会教育課、中央図書館、考古博物館、教育政策課
議題及び会議の概要	公開・非公開の別	非公開の場合の理由
市川市のコミュニティースクールについて（報告）	公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
平成28年度学校支援実践講座について（報告）	公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
	公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
	公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
	公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
	公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
傍聴者の人数	0 人	
閲覧・交付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニティ・スクール先進校の取組について（視察報告）」（報告資料） ・平成28年度学校支援実践講座 交流会の記録（報告資料） 	
特記事項		
所管課	生涯学習部 社会教育課（内線：4331）	

平成 28 年度 第 2 回社会教育委員会議録

平成 29 年 1 月 25 日 (水) 14:30~16:00

市川教育会館 2F 研修室

■出席者

社会教育委員 千坂 行雄 委員長、横田 恒幸 副委員長、
清水 輝和、立原 充彦、田中 眞理子、寺内 理絵子、福田 潔子、
石原 みさ子、福澤 健次、成田 久江、野澤 順治 (11名)

生涯学習部 千葉 部長、松本 次長、板垣 教育総務課長、木村 就学支援課長
戸佐 教育施設課長、川野 社会教育課長、大里 中央図書館長、
須藤 考古博物館館長、小笠原 青少年育成課主幹、

教育政策室 石田 教育政策課主幹 曾根主任

事務局 藪崎 主幹、清水 主幹、青山 主幹、吉野 副主幹、大崎 主査
三田村 主査、中村 主査 浮谷 主事

(19名)

■会議録

発言者	内 容
千坂委員長	市川市社会教育委員設置条例に基づく会議成立の確認
教育政策室 石田主幹・曾根主任	(1) 「市川市のコミュニティースクールについて」 ※別紙参照
成田委員	平成 28 年度コミュニティー・スクール説明会開催一覧に国分小が入っていない。 この説明会の訪問校は教育委員会が決めるのか、それとも学校からの要請か。
石田主幹	要請をうけた学校に説明に行っている。
清水委員	視察の報告にある天沼小学校の運営協議会の主な協議内容の 10,11 月に「教職員人事についての検討」「管理職人事についての検討」とある。これは何をするのか。
曾根主任	コミュニティースクールの柱が 3 つあり、その一つに任意であるが、教職員の任用に関することの提言がある。12 月に塩浜学園の学校運営協議会でも教職員の任用についての意見を頂いた。部活動を熱心に行う教員や塩浜学園を愛する教員に来てほしいという意見が出た。
千坂委員長	市川でも行うのか。
曾根主任	来年度から行う 17 校についても行う。
野澤委員	来年度から行う学校は学校から希望したのか。
曾根主任	学校に募集をかけて応募してもらった。
成田委員	29 年度の 17 校の予算についてはどうなっているか。
曾根主任	学校評議委員が学校運営委員に移行されるので、その予算が移行される。
石田主幹	運営費については、全部の学校が学校運営協議会に移行してから予算化していく。
千坂委員	コミュニティースクールについてはこれからやっていくことなので、また議題に入ってくる。説明を受けたことでよいのではないか。

事務局	(2) 「平成 28 年度学校支援実践講座について」 ※別紙参照
立原委員	六中の自主開催に関わった。人を集めきれないのが課題となった。ひざを突き合わせて大人と子どもが話してよかった。運営など中学校ブロックで育っていくと良い。つながりを持てるよう、歩みは遅くても少しずつ進むとよい。
清水委員	学校支援実践講座に参加した。冊子に出ているような子はよいが、あまり自分の意見を表現できない子が心配である。
成田委員	この取り組みは素晴らしい。他の地域では学校に地域の方が入っていけないと聞いているが、市川は地域の方が入っているのが良い。今後もこの事業を続けてほしい。今の子どもはだめといわれているが、実際に子どもと接すると、今の子ども達もいろいろ考えていることを伝えたい。いじめに限らず地域と学校がつながるようにしたい。
福田委員	池田小の事件以来学校が閉ざされた。親としては安全のために閉ざすことも良いが、地域に見守ってほしい気もある。そこで保護者が間に入ってチーム学校となると良い。うまく感想がかけない子へのケアは保護者の力が必要。
寺内委員	六中では地域の赤ちゃんと触れ合う、いのちの授業も行っており、地域と密接に活動している。様々な世代の人との関わりで、地域という意識が育っていくとよい。
田中委員	昔は地域といえば、子ども会だった。今は子ども会になかなか入りにくいことがあるが、新たに始めた地域もあり、現状維持である。実践講座は六中のように、住んでいる地域の学校に参加できるのが良い。
野澤委員	地域の方や支援者が入ると、打ち合わせなどに時間がかかるのが課題。教員にとっては刺激になるが。
福澤委員	学校は子どもたちを守るために努力している。学校支援実践講座では積極的に地域の方を中に入れていくことが評価できる。
石原委員	これからの進め方として、教育委員会にやれといわれてやるのではなく、熱い思いを持った方がキーマンとして進めていくと良い。学校支援コーディネーターを中心にとのことだが、もともとその役割でよいのか。学校支援コーディネーターと一緒に協力者できる人を育てていく。人材の発掘もしていく。
横田副委員長	いじめの構造についておさえておく必要がある。教員が地域の人に任せっぱなしにするのが怖い。
清水委員	学校間で格差がある。管理職は自分の学校しか見ていないのではないかと。
横田副委員長	管理職は地域の方にいい顔をする。実践講座を受けるときに管理職が主導するのか教職員に説明するのかわかるかどうかで変わる。
千坂委員長	市川独自の取り組みで課題もあるが期待していることの表れ。続けていってほしい。
事務局	全国社会教育研究大会千葉大会報告 平成 29 年 2 月 1 日葛南地方生涯学習振興大会 参加協力依頼 新成人の集い 報告 冊子「2016 市川の図書館について」の説明

平成 29 年 2 月 6 日 (承認)

市川市社会教育委員長 千坂 行雄



コミュニティ・スクール先進校の取組について（視察報告）

2017/01/25
市川市教育委員会 教育政策課

三鷹の森学園 三鷹市立第三中学校

1. 三鷹市の教育について

三鷹市の学校の教育理念は、“コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育”である。三鷹市には現在、公立学校が22校（小学校15校・中学校7校）あり、すべて小・中一貫教育校として7ブロック（7学園）に分類され、コミュニティ・スクールに指定されている。「質の高い教育の提供をどの学校においても保証する（義務教育9年間に責任をもつ）」・「地域全体で『共に』育てる」ことを掲げている。また、三鷹市が掲げる教育ビジョンは、“人間力”“社会力”の育成であり、重点目標を次の5つとしている。

1. 地域とともに協働する教育の推進
2. 小・中一貫とした質の高い学校教育の推進
3. 学校の経営力と教員の力量を高め、特色ある学園・学校づくりの推進
4. 安全で快適な、充実した教育環境の整備
5. 地域をつなぐ拠点となる学校づくり

コミュニティ・スクールについては、平成18年度に2校を指定し、その後、平成20年度までの3年間で、市内すべての公立学校を指定した。

2. 視察校概要・沿革

東京都三鷹市牟礼 4-13-8 電話番号 0422-44-6181

JR 中央線三鷹駅 バス約10分 三鷹市立三中下車 徒歩3分

平成20年4月に三鷹第五小学校と高山小学校が統合し、小・中一貫教育校 三鷹の森学園が開園。学園の特色は次の通りである。

1. 9年間を見通したカリキュラムによる系統的な指導（学力向上）
2. 9年間を見通したコミュニケーション能力の育成を目指した外国語教育
3. 9年間を見通した生活指導と教育支援（健全育成）
4. 児童・生徒の交流活動（学園の一体感）
5. 個に応じた少人数指導（算数・数学・英語）
6. 地域が見守るコミュニティ・スクール（地域・保護者の積極的参画）

昭和28年 4月 開校

平成20年 2月 公開授業・研究発表会

「小・中一貫した英語コミュニケーション能力の育成」-Input,Interaction,Initiative-

平成25年11月 研究協力校研究発表・公開授業

「自ら考え、表現する力の育成」～言語活動の充実を図った9年間の授業を創る～

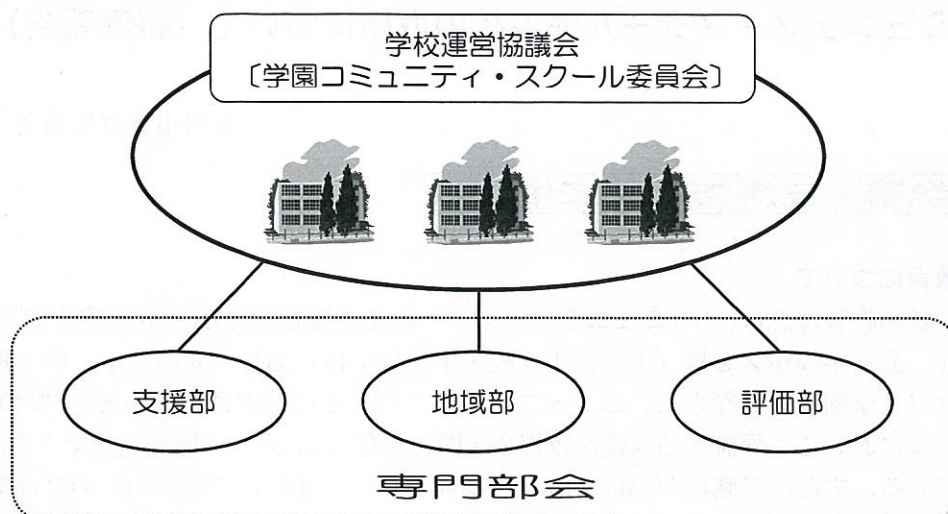
平成28年 1月 東京都教育委員会 言語能力向上拠点校 研究発表会

3. 学校規模

通常学級：9学級 特別支援学級：2学級

4. 学校運営協議会〔学園コミュニティ・スクール委員会〕について

市川市と異なる点は、各学校に学校運営協議会を設置するのではなく、各学園に設置している。



①委員の構成（30名以内）

- ◇当該校の児童または生徒の保護者
- ◇当該校の卒業生及び関係者
- ◇学識経験者
- ◇教育委員会が適当と認める者
- ◇当該校の所存する地域住民
- ◇当該校の校長及び教職員
- ◇関係行政機関の職員

②任期について

任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、最大4期までとする。

③開催形態と主な協議内容

- ・学校運営協議会は月1回のペースで開催。18時30分開始で約2時間。
- ・会場は各学校持ち回り。
- ・専門部会が“支援部”“地域部”“評価部”と3部会活動しており、3校に分かれてそれぞれ月に1～2回開催している。（学校運営協議会とは別に開催）

④三鷹の森学園学校運営協議会の特色

- ◇支援部
→学園の教育活動への保護者・地域人材の積極的な参画促進に関する活動
- ◇地域部
→学園における地域行事・活動の推進、児童・生徒の健全育成及び安全指導に関する活動を、地域諸団体と連携しながら行う。
- ◇評価部
→学校運営の基本的な方針に基づき、学園全体の運営について評価・助言を行う。学園評価アンケートの結果を分析・検証し、成果と課題を明確にして、次年度の教育活動改善に生かす。

5. 校長先生より（その他）

- ◇保護者や地域の方のご協力が大変ありがたい。
- ◇職場体験の活動場所は、コミュニティ・スクール委員会が紹介して下さり行っているため助かる。
- ◇小学校から中学校へ進学する際、事前に宿泊学習等で交流の場を設けているため、ギャップを感じずスムーズに入っていくことができる。
- ◇教職員の声としても、「コミュニティ・スクールとして取組をやってよかった」とあがっている。
- ◇この体制を構築するまでに3年かかった。しかし、時間はかかっても、学校・家庭・地域とのつながりが密になるためのよい取組である。

杉並区立天沼小学校

1. 杉並区の教育について

杉並区教育委員会は、杉並区教育ビジョン2012「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」の実現を目指し、地域と共にある学校づくりを進めている。取り組みの方向性としては次の通りである。

1. 子どもの豊かな人間性を育てる、より質の高い学校づくりの推進
2. 家庭・地域・学校のつながりを重視した、共に支える教育の推進
3. 地域と共に歩む「新たな公共空間」として教育基盤の整備
4. 生涯にわたる豊かな学びや文化・スポーツ活動等を通じ、誰もが輝く地域づくりの推進

コミュニティ・スクールは、そうした学校づくりの基盤となる制度で、保護者や地域住民等が「学校運営協議会」を通じて、教育委員会、校長と責任を分かち合いながら、当事者として学校運営に参画する。この仕組みにより、学校運営や教育活動に家庭・地域の意向が一層的確に反映され、子どもたちにとって豊かな成長の機会あふれる学校づくりが進む。平成17年4月に4校をコミュニティ・スクールに指定。平成28年4月現在、32校（小学校20校／中学校12校）がコミュニティ・スクールに指定され、今後さらに地域運営学校の拡充を図り、地域に開かれ地域に支えられる学校づくりの実現をめざす。市川市と同様、平成33年度までに全校をコミュニティ・スクールに指定することを目標としている。

2. 視察校概要・沿革

〒167-0032 東京都杉並区天沼 2-46-3 電話番号 03-3392-6428

JR 中央線・東京メトロ丸ノ内線荻窪駅 徒歩12分

杉並区初の統合新校として、杉並第五小学校と若杉小学校が統合し、平成20年4月に開校。天沼小学校は、杉並区教育ビジョンの具現化を図り、これからの時代のニーズに叶う地域立学校のプロトタイプを目指している。

- 平成20年9月 学校支援本部（あまぬまワンダラーズ）発足
- 平成22年4月 学校運営協議会発足
- 平成26年2月 「キャリア教育」で文部科学大臣表彰
- 平成27年4月 杉並区教育委員会研究推進事業『タブレット PC に関わる研究』
9月 5・6年生1人1台 Windows のタブレット 計180台導入
特別支援学級に1人1台の iPad 計18台導入

3. 学校規模

通常学級：17学級 特別支援学級：2学級

4. 地域運営学校〔コミュニティ・スクール〕について

(1) 学校運営協議会について

①委員の構成（12名以内）

	人数	任期	最大任期	報酬（1回ごと）
公募委員	4名以内	2年	3期	4,000円
校長推薦	4名以内	2年	4期	4,000円
学識経験者	3名以内	2年	5期	10,000円
校長	1名			

*会長の報酬は10,000円。報酬については、会議毎に4,000円または10,000円支払われる。

*委員の選出では、学識経験者において“学校医”“私立学校の副校長”などが選ばれている。校長と会長の話し合いにより委員候補者を選出する。

- * 他校との委員の兼任が認められている。
- * P T A本部役員は、協議会委員にはなれない。

②開催時期と主な協議内容

天沼小学校では、原則毎月開催している。

～平成28年度 天沼小学校 学校運営協議会 年間スケジュール～	
《4月》	学校経営方針／教職員人事発表／学校年間計画発表／部会活動年間計画検討
《5月》	学校運営協議会年間計画検討／学校評価情報提供内容検討／天沼教育フォーラム
《6月》	学校予算発表／図書館協議会報告／周年事業計画
《7月》	勉強会／サマーワークショップ内容検討
《8月》	サマーワークショップ ➡ 3校合同学校運営協議会（沓掛小学校・天沼中学校）
《9月》	杉並区及び天沼小学校児童生徒の学力／カウンセラーから見た天沼小学校の児童
《10月》	教職員人事について検討
《11月》	管理職人事について検討
《12月》	学校評価アンケート項目検討
《1月》	※2月に2回実施
《2月》	学校評価結果の考察・公表準備／学校評価考察
《3月》	教育課程（次年度）の承認／年間活動の総括

学校運営協議会の他、専門部会として“学校評価部会”“研修交流部会”“広報部会”が活動している。

③学校運営協議会活動の経過

<p>【1年目】学校を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育方針の承認 ②学校予算の状態等の勉強会 ③学習指導要領についての勉強会 ④個人情報保護、守秘義務等についての勉強会 ⑤学校を具体的に知るための情報収集 ⑥教職員・保護者との懇談 ⑦他地域の学校運営協議会を視察 ⑧文部科学省主催のコミュニティ・スクール推進協議会参加 	
<p>【2・3年目】学校とともに歩む</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育方針の承認 ②天沼中学校との小中合同研究会への参加・協力 ③学校公開アンケートの改良提案 ④学校評価アンケートの作成 	
<p>【4年目】学校評価を通じた学校運営への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ①分科会に分かれての活動推進 ※広報分科会では「学校だより」にコーナーを設置。紙面の1/4に毎回協議会の記事を掲載。 	
<p>【5・6年目】次世代インクルーシブな天沼第二ステージへ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①第二代校長の教育方針の確認 ②ICTインフラ整備…全教室に電子黒板機能プロジェクター 高学年に一人1台タブレット導入 特別支援学級に一人1台iPad導入 	<p>本物に触れさせる意義</p>
<p>【7年目】次世代インクルーシブに情報発信とICT挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「理解なくして評価は無し」…5月“天沼教育フォーラム”実施→不易と進化 CSと学校支援本部の理解推進 ②ICTインフラを生かして…子どもたちに身につけさせたい真の情報モラル 	

④天沼小学校学校運営協議会の特色

◇学校評価〔学校評価部会〕

→地域・保護者の声を集め、今後の学校運営に生かす。

◇サマワークショップ（教育懇談会）実施〔研修交流部会〕

→地域・保護者・教員がよく話し合い目標を共有する。このワークショップを、3校合同学校運営協議会（天沼小学校・杵掛小学校・天沼中学校）として開催している。

◇情報発信〔広報部会〕

→「学校だより」で学校運営協議会の情報提供に努める。

⑤学校運営協議会活動予算

◇各校一律に令達する金額（232,000円）

報償費 26,000円（制度研修講師等への謝礼金）

需用費 200,000円（広報用印刷物の発行、会議消耗品の購入等）

役務費 6,000円（連絡用切手、はがきの購入）

◇活動内容、実績等に応じて追加令達する金額（最大114,000円）

報償費 14,000円

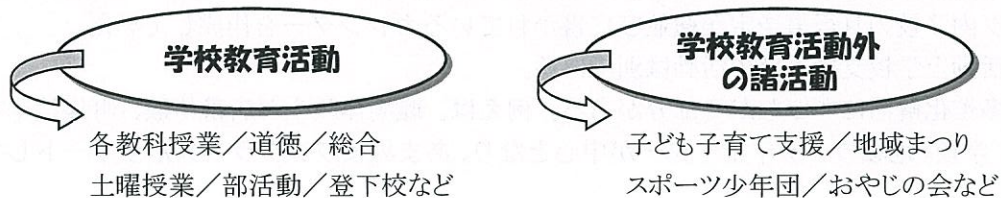
需用費 100,000円

（2）学校支援本部事業について

杉並区では、平成22年度の段階で区内すべての小中学校に学校支援本部が設置され、地域の活動を生かした様々な活動が現在も展開されている。

①天沼小学校における学校支援本部について

“あまぬまワンダラーズ”という名称で開校年度に発足。活動内容の大きな柱は下記の2つ。



例) 小中連携で行う行事のサポート／あまぬま芝生隊／校外学習のサポート
学習補助／家庭科のサポート／読書活動のサポート／伝承遊びサポート
放課後子ども教室の運営／放課後学習教室の運営 など

②あまぬまワンダラーズのメンバーについて

年に数回メンバーを募集し、登録制をとっている。そのため、都合に合わせて活動に協力できる。

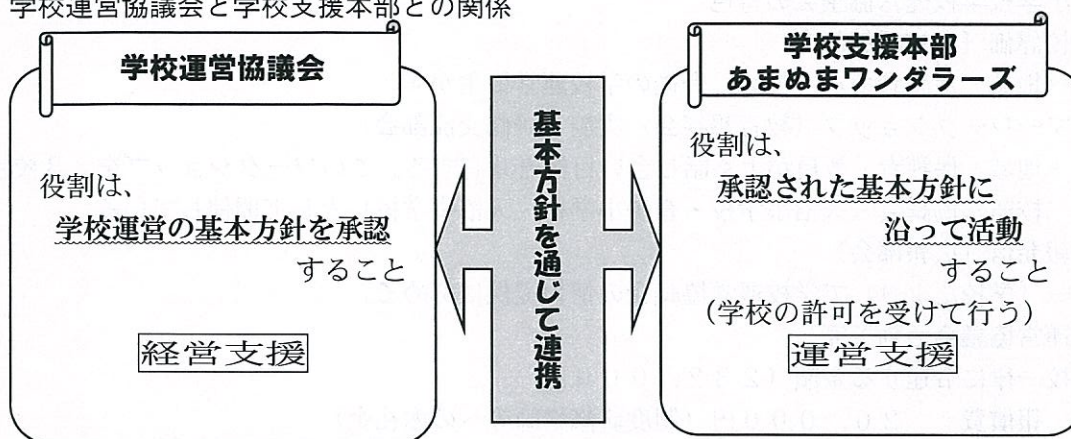
③あまぬまワンダラーズの構成について

本部長／副本部長／学校・地域コーディネーター／事務局長〔庶務・広報〕などが本部役員として組織されている。このあまぬまワンダラーズの主要メンバーは、職員室内に机が設けられており、教職員と同様の仲間とされている。

④あまぬまワンダラーズの中核

学校支援活動の中心となるのは、学校・地域コーディネーターである。コーディネーターがパイプ役となり、それぞれの活動に対して、登録されているメンバーを割り振る。そのため、学校・地域コーディネーターの役割が重要となる。学校・地域コーディネーターになるためには、教育委員会が実施する研修を修了した者でなければならない。

(3) 学校運営協議会と学校支援本部との関係



5. 校長先生より（その他）

- ◇学校を知ることが大事であるため、勉強会を開いて理解し合う。
- ◇天沼小学校を多くの方に知ってもらうために、“天沼教育フォーラム”を開催。
- ◇“本物に触れる教育活動”の一環として、タブレット授業の導入やスポーツ体験をさせる。
- ◇小中連携だけではなく、幼保小の連携推進も図り、“わくわく図書館プロジェクト”を学期ごとに実施している。
- ◇月1回の土曜授業では、あまぬまワンダラーズの支援のもと、ゲストティーチャーを招いたり、縦割り班活動を取り入れたりなど、体験活動を中心に進めている。
- ◇10年かかって今の形が出来つつあるため、じっくりやっていくことが大切。
- ◇学校・地域コーディネーターの部屋も完備されていた。
- ◇ブロック内3校の月行事予定が横並びに書かれているカレンダーを作成していた。
- ◇PTA活動と学校支援本部の活動は別である。
- ◇教員の多忙化解消にもつながる部分がある。例えば、職場体験やお店番体験、町探検や校外学習の引率を、学校・地域コーディネーターが中心となり、あまぬまワンダラーズがサポートしてくれる。

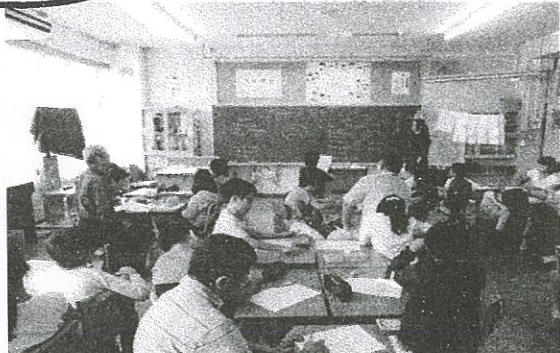
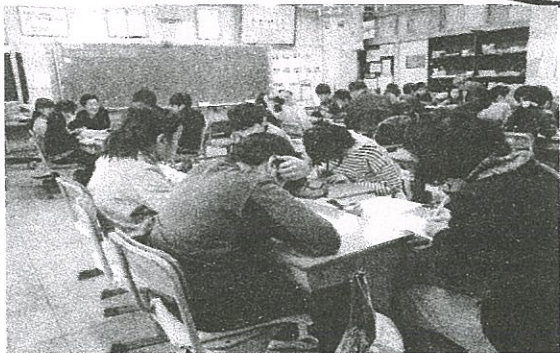
平成28年度

学校支援実践講座

交流会の記録

地域支援者の皆様、交流会へのご協力ありがとうございました。

講座アンケートの結果と各学級の子ども達の「声」をまとめましたので、是非、ご覧下さい！



平成28年度

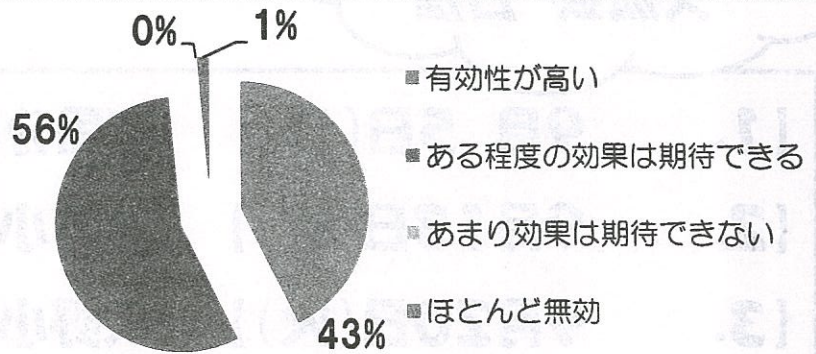
交流会 日程

- | | | |
|-------|-----------|-------------|
| [1.] | 9月 5日(月) | 東国分中学校 1年生 |
| [2.] | 9月13日(火) | 北方小学校 5・6年生 |
| [3.] | 9月20日(火) | 大野小学校 3年生 |
| [4.] | 10月 4日(火) | 稻荷木小学校 5年生 |
| [5.] | 10月11日(火) | 大和田小学校 3年生 |
| [6.] | 10月21日(木) | 大和田小学校 5年生 |
| [7.] | 10月25日(火) | 富美浜小学校 5年生 |
| [8.] | 11月 2日(水) | 第五中学校 2年生 |
| [9.] | 11月16日(水) | 第六中学校 2年生 |
| [10.] | 11月25日(金) | 大町小学校 3・4年生 |
| [11.] | 12月 6日(火) | 大野小学校 5年生 |
| [12.] | 12月 8日(木) | 福栄小学校 4年生 |
| [13.] | 12月13日(火) | 真間小学校 5年生 |
| [14.] | 12月14日(水) | 下貝塚中学校 1年生 |
| [15.] | 12月15日(木) | 平田小学校 5年生 |

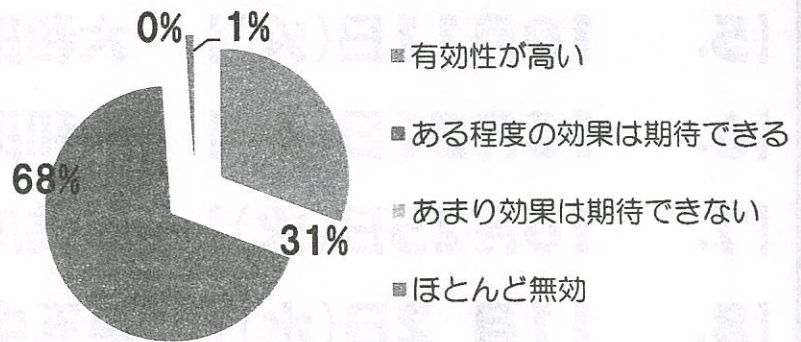
合計…13校55学級

受講者アンケート【結果】

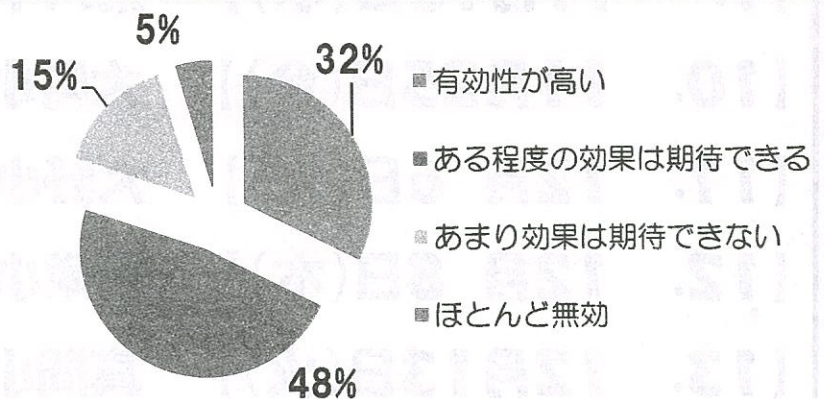
1.
交流会の学習プログラム
(教材)について



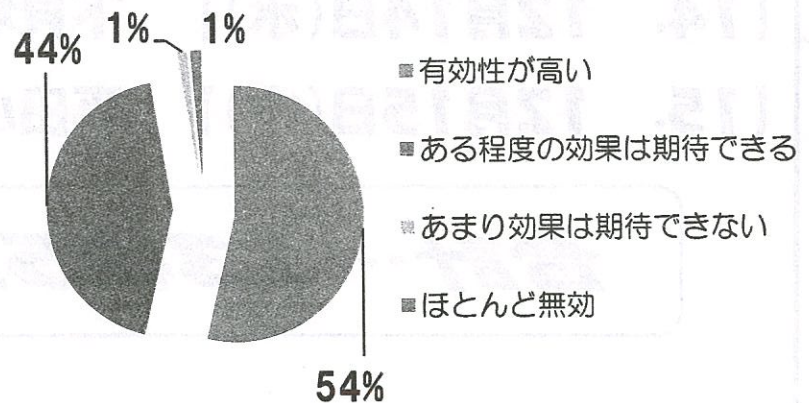
2.
第2回・第3回講座の
授業演習について



3.
学級担任との
事前打合せについて

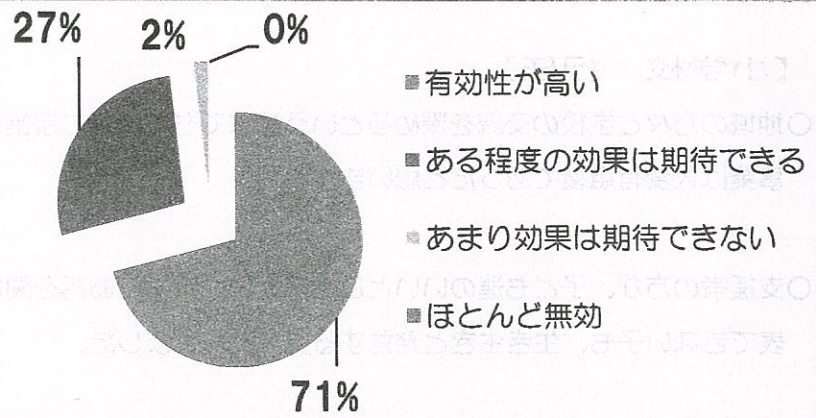


4.
事業全体について

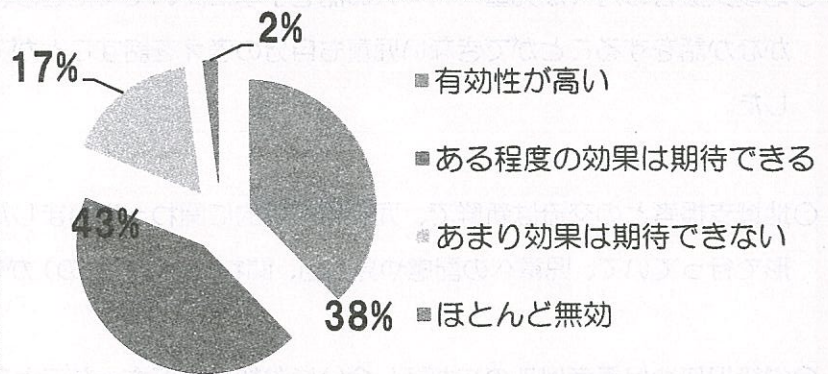


学級担任アンケート【結果】

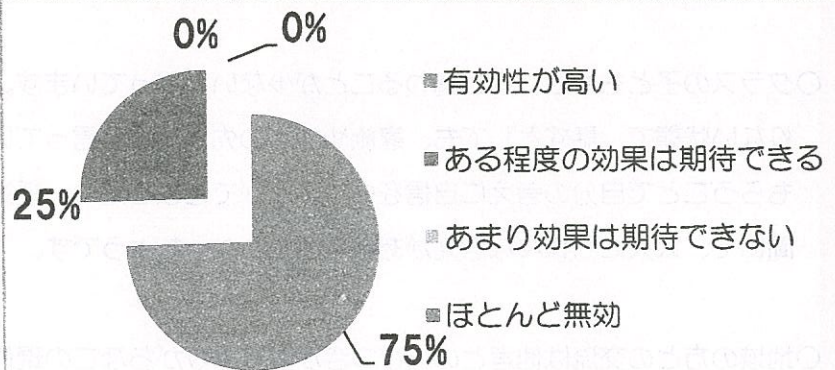
1.
交流会の**学習プログラム**
(教材)について



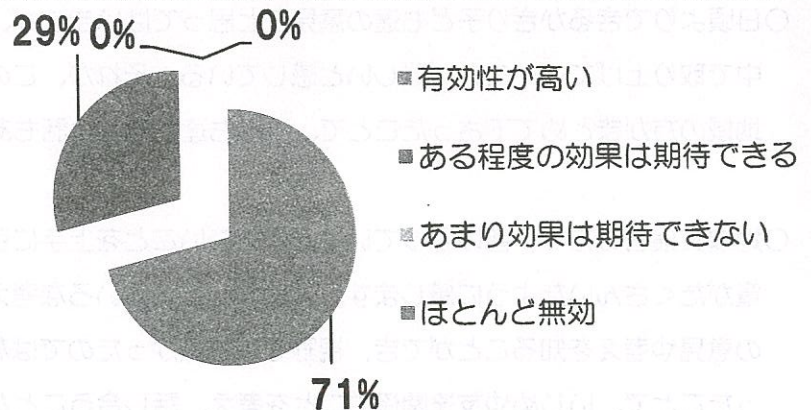
2.
地域支援者との
事前打合せについて



3.
交流会における**地域支**
援者の役割について



4.
事業全体について



平成28年度 学級担任及び児童・生徒 交流会感想文

※全て一部抜粋

【小学校 担任】

- 地域の方々と学校の交流を深めるという意味でも、道徳の授業を充実させるという意味でも、今回の事業は大変有意義であったと思います。
- 支援者の方が、子ども達のいいところを見つけ真剣にお話を聞いて下さったことで、普段なかなか発表できない子も、生き生きと発言する姿が見られました。
- 地域支援者の方々が児童一人一人の話を丁寧に聞いてくださり、日ごろ学級全体での話し合いではなかなか話をすることができない児童も自分の考えを話すことができたので、とても良かったと感じました。
- 地域支援者との交流は新鮮で、児童も積極的に関わっていました。役割りに関しても、少人数を見る形で行っていて、児童への配慮や見る目、関わり（大人との）が倍になり、とても良いと感じました。
- 学級担任や保護者以外の方が話し合いに参加して下さったことで、普段は話しにくいことも話すことができた児童が多かったように思います。
- クラスの子も達は、人と関わるのが少ないと思っています。特に大人の方とは、話す機会もあまりない状態で、話すとしても、家族や学年の先生程度と言っている中、支援者の方々に話しを聞いてもらうことで自分の考えに自信をもつことができましたし、授業の最後に支援者のみなさんの思いを聞いて、大人にも様々な考えがあることがわかったようです。
- 地域の方との交流は他者との結びつきが浅くなりがちなの現代には、非常にありがたい交流です。
- 日頃よりできるかぎり子ども達の意見をとってはいますが、なかなか一人一人全員の意見を授業の中で取り上げていくことが難しいと感じている。それが、この授業の中では、小さなグループの話を地域の方がまとめて下さったことで、子ども達も自分の話もあったと感じられたのはよかった。
- 地域支援者の方が、普段思っても言えないことを上手に引き出して下さったので、発言できた児童がたくさんいたように感じます。人によっていろいろな考え方があることや経験豊富な支援者さんの意見や考えを知ることができ、視野も少し広がったのではないかと思います。このような機会があったことで、いじめや友達関係のことを考え、話し合うことができました。

【中学校 担任】

- 生徒達もリラックスした雰囲気の中、思い思いの考えを自由に述べている様子が、見られとても楽しそうでした。話したいことをこの機会を通じて、思い切って発言できた者も多くいたようで、話し合いの後、すっきりした表情の生徒も多かったように見えました。
- 5～6人の少人数のグループで話を進めていただけたので、普段の授業と違い、子ども達も発言しやすい雰囲気だったように感じます。なにより、いじめや人間関係づくりという内容について、大人の人に自分の思いや考えを話したり、聞いてもらえたというのは、子ども達にとっても大変貴重な経験だったと感じています。
- 地域支援者の方が、上手く話し合いをしていただいたおかげで活発な話し合いができました。かなり深い議論ができていました。普段とは違い地域の方がいることで、程良い緊張感の中で話し合っていました。
- 子ども達の生活では大人が自分の意見をしっかりと聞いてくれる経験が少ないと思います。今回の交流で自分の話を受け入れてもらえる体験ができて、大人に対する信頼も深まったのではないかと思います。
- 職員以外の大人と触れ合えたことで、いつもとは違う、子ども達と表情を見ることができたことも大きな収穫となりました。
- 普段見られないような一面を見ることができ、客観的に自分のクラスを見ることが今後の学級づくりにつながるのだと改めて実感いたしました。正直な気持ちを言い合える（良い面だけでなく、うしろめたい感情も）環境を今後も大切にしていき、子ども達の心の成長を見守りたいと思います。
- 生徒たちがそれぞれの立場になって真剣に本音で話すことができていたのは、生徒の話を丁寧に聞いて下さった地域支援者の皆さんのおかげです。生徒たちは、地域支援者の方々が自分の話を聞いて認めてくださったことが、とても嬉しかったと言っていました。中学2年生という難しい時期に本音を大人に話せるということは、とても大事な事かもしれません。この交流を通して気づいたことを生徒と共に今後の学校生活に活かしていきたいと思います。
- 様々な考え方を上手にまとめながら、共感し質問し、更に考えを深めさせるという形式で進める話し合い活動がとても充実していました。

【小学校 児童】

☆1人では少ししか考えられないけれども、話し合っているうちにたくさんの考えが出てきました。でも同じ人間なのに「その発想はなかった。」などの思いがでてきました。人によって考え方はちがうということもわかりました。《小5・男子》

☆今回の話し合いは、いつもは自分の意見を次々に言っていくだけだけれど、今回は誰かの意見に対してどう思うか、付け足しや反対を言っていたのでよかったと思いました。今回の交流会をいかして、更にレベルの高い話し合いをしていきたいと思いました。《小5・女子》

☆僕は、いじめをしている人だけがいじめないとずっと思っていました。ですが、この交流会でいじめている人もいじめられなくても、それを見て見ぬふいをする人もすごくひどいと思いました。《小6・男子》

☆今回の授業では、たくさん意見を言うことができ、自分の思ったことをすべて言えたのでとても気持ちよかったです。みんな同じ人間だけれど、思っていることはみんな違うので話し合いがおもしろかったです。他の班も違う意見がでたので、「なるほど。」と思いました。いじめについて改めることができたのでいい機会になりました。《小6・女子》

☆地域の方がわかりやすいお話をしてくれたので、いじめのもとになることやいじめについていろいろ知ることができました。もし、地域の方と勉強をしたようなことが本当に起きてしまったときは、今回勉強したことを思い出しながら解決できたらいいなと思いました。《小3・女子》

☆僕は素直な自分の意見が言えました。この道徳の交流会をきっかけに自分の意見をしっかり伝え、友だちの意見と自分の意見は、どこが同じでどこが違うのかなどを比べたいと思いました。《小5・男子》

☆この感想文を書いている時、後ろの男子が「道徳って何の意味があるの？」と聞いてきました。私は、「自分のためにも相手のためにも自分を見つめ直して、よりよい未来にするための「授業」だと思っています。この学習をして、改めて人と交流する「楽しさ」が分った気がします。《小5・女子》

☆地域の方は、優しくとても話しやすかったです。人と関わる時は、表情を見たい、いじめにつながらないようにしたい、個性を認めたいするのが大事とよくわかりました。《小5・男子》

☆スマートフォンの扱い方はとても難しく自分も使う時に気をつけられたら良いと思います。スマートフォンは、とても便利な道具だけれど、トラブルや仲間はずれのもとになることもあって大変な場面もあることがよくわかりました。また、大事なことは直接顔を見て話すことが大切なんだなと思い気をつけようと思いました。

《小5・女子》

☆交流会を通して、人の事を考えて行動することがとても大事だという事を改めて知ることができた学習だと思いました。人の意見を聞いて、自分の意見を広げたい深めたいすることが大事な学習だったので、それが出来たのでよかったです。《小6・男子》

☆地域の方と班の皆で話していると、色々な意見が出てきて、同感したり、ちょっと違うと思うこともありました。でも人との関わりをやって、これからも仲間外れや差別をしないようにしたいと思いました。《小5・男子》

☆交流会をやって、最初はきんちょうしたけど、(地域支援者の方が)とても優しくしゃべりやすく何でも聞いてくれる優しい方でした。そのおかげで、いっぱい書けたし、何でも言えるようになりました。《小3・女子》

☆この交流会をもっと広げていけば、みんな仲良くなれると思うので、この活動を行っていけば絆も深まると思います。《小5・男子》

☆交流会を通して、この班だけではなく他の班の考えも良くわかったので、もっといろんな人の意見を大切にしようと思いました。人との関わりについてよく考えることもできたし、いじめについて深く考えることもでき、とてもよい機会でした。普段の時でもいじめについて考えようと思いました。《小5・女子》

☆いじめ等はいじめられている人たちにストレスを与えたり傷つけたりしてやってはいけないと改めて思いました。地域の方たちと交流していなかったら、もしかしたら気にしないでやっていたかもしれないのですごくわかりました。地域の方、ありがとうございました。《小5・男子》

☆僕は、あまり地域の人と関わる事が少なかったので、道德で地域の人と交流ができてよかったです。授業で自分の嫌がることや他人の嫌がるいことはしてはいけない事を学びました。《小5・男子》

☆地域の方の説明では、みなさんていねいに話をしているどの班が何を考えていたかが分りやすく、自分の意見と比べることができました。そして、事例を通して相談して自分の考えがまちがっていないかというのも確認することができました。《小5・男子》

☆人を傷つける言葉は一言で友達関係もなくなってしまうかもしれないと思いました。私もこれから気を付けたいと思います。いじめなどの差別的な行為をしている人を見かけたら止めたいと思います。《小5・女子》

☆生きているには、人と関わることもすごく大事だけれど、人の気持ちを考えたり人に対する行動が大事だと思います。地域の人たちと関わっていじめを考えられてよかったです。《小6・女子》

【中学校 生徒】

★自分たちの班が思ったことと、他の班が思ったことが全然違ったりして、話し合いをして、発表することはとてもいいことなんだと思いました。これからも話し合いをするときは、他の人達の意見を聞いて、その事についてよく考えるということをしっかりしていこうと思いました。他の人が言った意見をちゃんと理解できるようにしようと思いました。《中1・女子》

★一人一人が必ず思ったことを言うので、班の人がどんなふうにもこの話を聞いていたかなどがわかってよかったです。また、この思ったことを聞いて「あーそうだな！」「たしかに。」と思うことが楽しかったです。これを聞いた後に、「〇〇君はどうすればよかったですか？」など、地域の方が言って下さり、もっと深いところまで話し合うことができました。《中2・女子》

★地域の方々と話し合うことによって、自分たち“仲間”の視点からと地域の方々の“見守る”視点。両方の視点から例題の問題点について考えることによって、新たな疑問、問題点などが次々と見付き、本当に良い機会となりました。地域の方が“優しく”そして“親しげに”接してくれたので、次第に緊張がほぐれ、どんどん話し合う言葉に熱が帯びていくのを自分でも感じました。《中2・男子》

★地域の方とはいつも挨拶をしたりするくらいだったけど、交流会で話し合いをして地域の方にも支えられて今が成り立っているとわかった。《中2・男子》

★人には言葉があるのだから、その言葉をかける勇気が必要なのだと今回を通してわかりました。《中2・女子》

★さまざまな意見を聞いて、学校生活の視野が広がったような気がしました。また、人に対して広く、深く考えることが大切なのだと気づかされました。《中1・男子》

★今回の体験で一番感じたことは、「一人一人の立場について考える。」です。一人だけの立場で考えるのではなくて、他の人の立場でも考えることで、周りへの視野やその時どのような考えをもっているのかで、その時その時の判断がつきやすく指示が出しやすい。《中2・男子》

★自分が事例から1番初めに受け取った印象とは、また違った。みんなの話を聞いていると、「あ～こんな風に思っていたんだ。」とか「こんな考え方もあるのか。」と、とても興味深いと思うし、その人が感じたことから、その人の人間性とかもわかる部分もあるからすごく楽しかったと思います。みんなと話してでた新たな疑問、問いかけに対して、また考えるのがおもしろかったです。《中2・女子》

★「地域の方との交流会」をして、ふだんあまり地域の方と関わる機会が少ないので、交流会ができとても良かったです。これからも地域の方や先生、友達、家族に感謝して、毎日過ごしていきたいと思います。

《中1・女子》

★2時間の短い時間だったけど、相手を思う気持ちや相手に対する行動を忘れかけていたけど、この2時間で思い出すことができました。自分がやっている事は、イジル程度でおもしろ半分で行っている事も、相手にとっては本当に嫌かもしれないかと思うとやめようという事を感じました。《中1・女子》

★地域の方からの目線、親からの目線などいろいろな目線で話を進めてくださったおかげで、とても良い話し合いができました。2時間で2つの本当に起こりそうな事例について話し合い、人間関係について考える事ができ対策も見つけることができましたので、楽しかったです。この話し合いで出た意見をそのままにはせず今後の生活にも活かしたいと思います。《中1・男子》

★自分の意見をみんなに発表するのも大切だけど、他の人の意見も大切だと改めて思った。これからは、自分の考えだけでなく、他の人の考えを参考にしていこうと思います。《中1・男子》

★みんなの意見を聞くことで、私の考えている事とはちがう考えがありそれに対しての意見をまた考えてとやるうちにとっても勉強になっている事に気づきました。地域支援者の方は、ただ話し合うだけでなく私たちに「ヨウタロウなどの気持ちになったらどう思う？」と聞いてくれて、良い意見などは褒めてくれたり考える楽しさを教えてくださいました。《中1・女子》

★話し合いの時に、地域の方がいてくださらなかったらきっと、視野の狭いままあまり話し合いが進まなかったと思います。でも、私たちよりも多くの年を生きてきた地域の方が「じゃあ、こういう場合だったら皆はどうする？」などと話してくださったので、1つのお話なのに色々なパターンで考えることができました。やはり、私たちよりもたくさん苦労や経験をしてきている人たちはすごいなと思いました。《中2・女子》

★地域の方がたくさん話しかけてくれて、人見知りの私でもたくさん話すことができました。ありがとうございました。《中2・女子》

★個人から班、班からクラスへと段々幅を広げていくことで、頭の中を整理しながら取り組むことができたので、他の人の意見もいつもより少しすんなりと受け入れることができたので、良かったです。《中2・女子》

★地域の方と話せた事により、考えが深まったと思います。最初は、仲間外れはよくないだけだったけど、地域の方と話し、考えてみると更に他の考えもうかんできました。《中1・男子》

人をつなぐ

未来へつなぐ

市川の教育

【編集】

市川市教育委員会

生涯学習部 社会教育課

住所：市川市南八幡1-17-15

TEL：047-383-9386